

JA全農福島 肥料農薬部 技術情報だより ～農薬情報編～Vol.2

拡散性除草剤とは

技術情報だより「農薬情報編」Vol.1にて掲載した、自己拡散性を持つ除草剤のこ
とです。

農薬自身が田面水に浮き、
少しずつ移動することで成分
を広い範囲にわたって溶かし
出す特徴を持ちます。そのた
め、圃場内に入って中心部へ
の散布が必要なく、さらに粒

水田除草作業を効率的に「拡散性除草剤」の省力散布技術

径が1キロ粒剤に比べ大きい
ため、ドリフトの心配も減り
ます。

省力散布の方法

水稲除草剤の省力化技術が
進み多種多様な散布方法が可
能となってきました。特に拡
散性除草剤では複数の散布方
法が可能であり、天候・圃場
条件に合わせた方法を選択で

きます。（登録によってはで
きない散布方法もありますの
で、登録内容をよくご確認く
ださい）

除草効果を得る為に

水稲除草剤の効果を十分に
発揮するためには、「使用上
のポイント」を守る必要があ
ります。

水口施用

周縁散布



無人航空機散布

田植or播種同時散布



散布方法（一部）

【使用上のポイント】



除草剤散布のポイント

- ① 湛水のまま散布し、**少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（3～5cm）を保つ。**
- ② 環境への流出防止のため**散布後7日間止水する。**
- ③ （拡散性除草剤は）農薬成分を十分に拡散させるため、**やや深めの湛水（5～6cm）を保った状態で散布する。**
- ④ 自然減水により田面が露出しそうな場合は、止水のまま通常湛水になるまで静かに入水する。

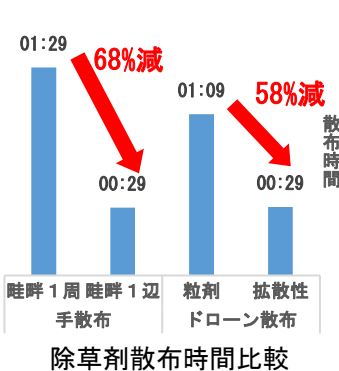
拡散性水稲除草剤の散布比較実演会

拡散性除草剤によって作業
時間短縮となるか検証するた
め、福島県内2か所にて散布
比較実演会を実施しました。

【比較した散布方法】

- ・（1キロ粒）ドローン散布
- ・（拡散性）ドローン散布
- ・（拡散性）畦畔1周散布
- ・（拡散性）畦畔1辺散布

その結果、ドローンで1キ
ロ粒剤を散布するより**拡散性
除草剤を散布することで作業
時間58%減**、通常の畦畔を1
周する手散布に比べ**拡散性除
草剤の1辺散布では68%減**も
の作業時間短縮になりました。



お近くのJAまで！

拡散性水稻除草剤の散布比較実演会

JAふくしま未来協力のもと安達郡大玉村、JA会津よつば協力のもと喜多方市塩川町の圃場にて「拡散性水稻除草剤の散布比較実演会」を実施いたしました。

<設計>

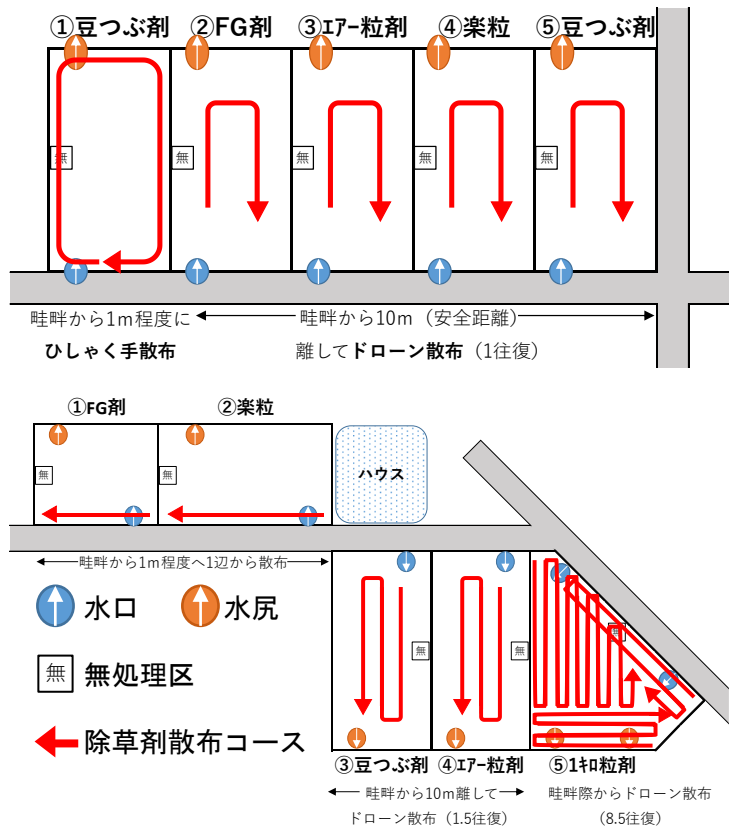
安達郡大玉村 圃場 1

番号	製品名	処理方法	圃場面積
①	豆つぶ剤	畦畔周縁散布	26.5a
②	FG剤	ドローン散布	28a
③	ⅰ7-粒剤	ドローン散布	28a
④	楽粒	ドローン散布	28a
⑤	豆つぶ剤	ドローン散布	28a

喜多方市塩川町 圃場 2

番号	製品名	処理方法	圃場面積
①	FG剤	畦畔 1 辺散布	22a
②	楽粒	畦畔 1 辺散布	32a
③	豆つぶ剤	ドローン散布	38a
④	ⅰ7-粒剤	ドローン散布	36a
⑤	1和粒剤	ドローン散布	46a

<圃場図・除草剤散布コース>



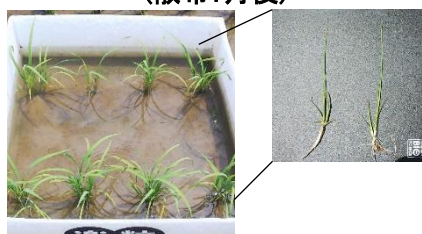
<結果>

圃場面積がそれぞれ異なるため、散布時間を10aあたりで計算したところ、**拡散性除草剤を用い、省力散布方法を用いることで大幅な作業時間短縮**となりました。

散布方法	散布地点	製剤種類	対象試験区	散布時間 平均 (/10a)	時間短縮
手散布	畦畔周縁	拡散性	圃場 1-①	1分29秒	—
	畦畔 1 辺	拡散性	圃場 2-①、②	29秒	68%減
ドローン	全面	1キロ粒剤	圃場 2-⑤	1分9秒	—
	1~1.5往復	拡散性	圃場 1-②~⑤、圃場 2-③、④	29秒	58%減

拡散性除草剤では、1辺散布やドローンで1往復だけという**丁寧な均一散布を行わなくても十分な殺草・抑草効果**が見られました。ただし、**田面が露出していた地点については雑草が多発生**する結果となりました。

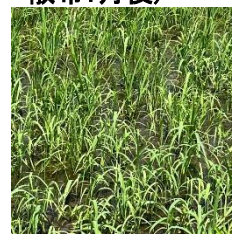
無処理区【ホタルイ発生】
(散布1月後)



処理区
(散布1月後)



処理区【田面露出部雑草多発生】
(散布14日後 ⇒ 散布1月後)



農薬についてのお問い合わせは**お近くのJA**まで！